

ポラリス

札幌社会保険総合病院 院外広報誌

第22号

2011年10月



- パネル「当院のあゆみ」
常設展示コーナー設置について
- ピンクリボン月間イベント
- 第51回 北辰メディカルフォーラム
- 医療の現場から①②
- 【感染管理部】って?何しているの?誰がいるの?
- 看護局の現状
- こんにちは 医療連携・相談室です
- 七夕の夕べ

ポラリスの由来

ポラリスは北極星を意味します。当院の前身である北辰病院の北辰もまた、ポラリスと同じ北極星を意味する言葉なのです。北極星のように、北国の中で悠久に燐然と輝き続けたいという願いが込められているのです。題字は秦院長の直筆です。

パネル「当院のあゆみ」 常設展示コーナー設置について

院長 秦 温信

かねて懸案でありましたパネル「当院のあゆみ」と展示コーナーが薬剤部窓口前に設置され、10月3日（月）に除幕式が行われました。除幕式には、北海道医師会長の長瀬 清先生と元札幌市医師会長の島田保久先生にご来賓としてご臨席いただき、また佐野文男名誉院長はじめ多くの職員に出席していただきました。長瀬先生と島田先生は北海道医史学研究会の会長と代表幹事でもあります。お二人から大変ご丁重なご挨拶をいただきました。

当院の創立は、明治26年（1893）関場不二彦先生が「関場医院」として開設されたのに始まり、「北辰病院」として91年間続きますが、平成2年に札幌社会保険総合病院として現在地に移転し、今年で118年目ということになります。また、先生

が来道したのは明治25年（1892）ですので、来年は来道120年目にあたることになります。

初代院長の関場不二彦先生は恐らく将来とも現れないような偉大な方ではないかと思います。北海道医師会の初代会長や札幌市医師会の初代会長もされ、北海道での初めての医学雑誌『北海医報』を当時の北辰病院から発行しています。また、昭和8年に『西医東漸史話』という、医学史の本を発刊されてあります。これは3巻に渡った1319ページという大変な大著ですが、このほかにも膨大な著述が稿本として残されています。

私は先生のような先人の医療に関する闘いから学ぶべきものがあるのではないかと思い、本年4月拙著『北辰の如く—関場不二彦伝』を刊行しました。この本の執筆に当たって収集した資料も含め、まだまだ知られていない創設期の当院のことや、関場不二彦先生のことを多くの方々にも知ってもらいたいと思っていました。拙著発刊を機にパネルとしてまとめると共に資料の一部を展示してはどうかと思い検討してきましたが、今回関係者のご努力によって実現したものです。

当院の院是は「当院は人間愛と人権尊重を基本とした全人的医療をめざします」というのですが、これこそ先生が目指した医療の本質を表した言葉だと思います。近年の激しい医療改革の嵐の中で医療はますます混迷を深めています。このような時期だからこそ関場不二彦先生の生きざまを知り、改めて医の原点に立ち返ってみると共に当院の歩みを振り返ってみる必要があるのではないでしょうか。

当院は厚別区ただ一つの公的機能をもった地域医療支援病院として、地域の医療機関と協力して地域の医療・保健・福祉に貢献することを使命としてきました。すべての職員が関場不二彦先生の遺志を引き継ぎ、院是にも掲げている「全人的医療」をこれからも推し進めて行くことを期待するものです。



10月16日にピンクリボン月間イベント開催 乳がん・子宮がん検診Dayと市民公開フォーラム 「乳がん死ゼロをめざして」

健診センター 科長 岩田佳代

みなさん、ピンクリボンをご存知ですか？

ピンクリボンは乳がんの早期発見・早期治療のシンボルマークです。

日本人の16人に1人は乳がんになると言われています。ここ数年乳がん検診の無料クーポン券が配布されるなど乳がんに対する関心は高まってきていますが、まだまだ受診率は低く無料クーポンでさえ4人に一人しか利用していません。ごく早期に発見された乳がんは90%が治癒すると言われていますが、乳がんの死亡数は増加傾向にあります。

当院では、乳がんを自分の問題として意識してもらいたいと2009年より10月第3日曜日にピンクリボン月間として、女性だけの乳がん・子宮がん検診Dayと市民公開フォーラムを開催しております。がん検診は乳がん・子宮がん検診それぞれ50人を対象に普段の検診では行っていない「がん予防」についてのお話や乳房のモデルを使ってのしこりチェックを行ってあります。



今年は10月16日にシェラトンホテル3階パレスボールルームで自ら乳がんを体験され精力的に活動しているゴスペルシンガーのKIKIさんと北海道がんセンターの乳腺外科医長渡邊健一先生をお迎えして、市民公開フォーラムを開催しました。すばらしいKIKIさんの歌声と体験談を聞き、渡邊先生が乳がんと乳がん検診をわかり易く解説され、さらに当院の健診を担当している技師らによるパネルディスカッションも行われました。会場には100名を超える市民や医療関係者が集まり、乳がんを知り乳がん検診を考えるフォーラムを熱心に聞き入っていました。

♥ がん検診は「愛する人への贈り物」♥

今年も無料クーポン券は、乳がん検診については40・45・50・55・60歳の方へ、子宮がん検診については、20・25・30・35・40歳の方へ送付されています。今年で3回目を迎ますが、非常に無料クーポンについての問い合わせが少なくあまり利用されていないように感じます。例年、クーポンの有効期限が翌年3月ということで、3月に申込が殺到し予約人数を超えててしまいます。余裕を持って予約していただきたいですね。是非、この機会にいつもとちょっと違う乳がん・子宮がん検診をご利用ください。

自分はがんにかかるないと思わないで、がんになっても大丈夫と考えて是非がん検診を受けていただきたいものです。皆さんのがんリボンマークを目にした時に、自分とその周りの大切な人の健康を考える機会になればと考えます。がん検診は「愛する人への贈り物」です。



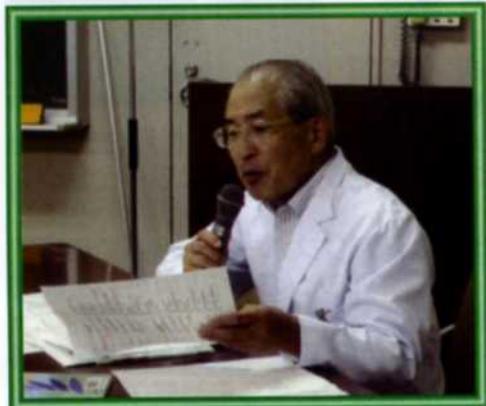
第51回 北辰メディカルフォーラム 医療人としての職業倫理とその実践～諸外国の事例に学ぶ～

平成23年9月14日午後6時30分より当院講義室において第51回北辰メディカルフォーラムが秦院長の座長で開催されました。

毎回著名な先生をお迎えして講演していただいておりますが今回は日本赤十字医療センター名誉院長 森岡恭彦先生にお越しいただきました。森岡先生は昭和天皇を手術されたことでも有名であり、この北辰メディカルフォーラムでは過去2回ご講演していただけております。

豊富な経験の中からいろいろな事例を紹介し「医の倫理」についてわかりやすくお話ししてくださいました。

会場の講義室には大勢の職員が集まり熱心に講演をきいてありました。



医療の現場から①

「心の病気？心臓の病気？」たこつぼ心筋症

内科・循環器科 藤井徳幸



たこつぼ型心筋症という病気があります。詳細が分かっておらず、また発症率もそれ程多くありません。このためいわゆる教科書にも載っていませんし、医師国家試験にも出題されません。なかなか診断も難しく、心臓病の専門である循環器内科のドクターでも診断に至らないということもあります。

急性心筋梗塞と非常によく似た病気で、突然発症します。胸痛を訴え、心電図ではSTが上昇しT波変化を伴い、CKやトロポニンTといった心筋逸脱酵素が上昇します。ここまで急 性心筋梗塞と同じです。決定的に違うのは、原因が冠動脈閉塞によるものではないということです。急性心筋梗塞と考え、緊急で冠動脈造影を行い、閉塞がなかったということで診断されるケースも多いのです。もう一つの特徴は、心臓のメインポンプである左心室が基部を除いて大きく膨らんでしまい「たこつぼ」様になってしまうということです。この左心室の異常は2週間以内に正常化することが多いのですが、どうして「たこつぼ」になるのか、どうして元に戻るのかはまだわかっていないまんです。まったくもって奇妙な病気です。

この数少ない奇妙な病気は、臨床登録研究などが行われ、少しづつその様子がわかってきました。この病気の発症には、人間の情動が大きく関与しているのです。辛いことや、苦しいことがあった後などにこの病気が発症するのです。驚くべきことに、病気の発生数が少ないにもかかわらず、高齢の女性が最愛の夫を亡くし、その葬儀中に発症するということがとても多いのです。

現代医学がこれだけ発達し、心臓に関しても基礎医学・臨床医学研究はともに大きく進歩しています。それにもかかわらず、たこつぼ型心筋症は詳細がまだわかっていない奇妙な病気です。そして、もっと奇妙なのは、心臓の形を大きく変えてしまうほどの人間の情動なのかもしれません。

腎臓内科のお仕事

腎臓内科 江端 真一



皆さんこんにちは。腎臓内科の江端と申します。札幌社会保険総合病院には腎臓内科が存在しますが、道内に腎臓内科や腎臓専門外来を掲げている病院は、実はそれほど多くありません。それでも札幌はまだ多いほうですが、地方に行きますとほとんど見当たりません。かなり悲惨な状態です。それでいて、最近耳にすることも多くなつた慢性腎臓病（CKD）の日本の患者数は1000万人を超え、新たな国民病といわれるほどであり、腎臓専門施設のニーズは年々高まるばかりです。

そんな腎臓内科ですが、われわれは普段どのような診療をしているのでしょうか。興味がない方も多いかもしませんが、せっかくですので以下に簡単にご説明いたします。おおざっぱに分類しますと、

- ◆水・電解質異常
- ◆腎炎・ネフローゼ
- ◆腎不全

の三本柱となります。それぞれを詳しく述べるスペースはありませんので、さらっと説明します。

まず①水・電解質異常ですが、読んで字の通り、溢水や脱水、NaやK値の異常を扱います。大量の飲水、利尿剤の大量投与など心因性のもの、腎不全・肝不全・心不全など臓器不全に伴うもの、甲状腺機能異常・副腎機能異常など内分泌異常に伴うもの、Batter症候群やLiddle症候群など尿細管障害に伴うものなど様々です。これらを鑑別し、適切に補正していきます。

次に②腎炎・ネフローゼですが、まず腎炎について。急性・慢性・急速進行性に大分されます。それぞれ代表的な疾患は、溶連菌感染後急性糸球体腎炎、IgA腎症、ANCA関連腎炎です。そのなかでIgA腎症について少し話します。この疾患はかつて、日本人の透析導入患者の原因疾患第一位でしたが、その数は年々減っています。理由は、早期発見が出来るようになったことと、寛解導入に至る治療が確立しつつあることにあります。検診制度の確立と、扁摘・バルス療法の普及がその原因です。（耳鼻咽喉科の先生方、いつもありがとうございます。）次にネフローゼですが、原発性のものでは比較的予後の良い微小変化群、膜性腎症などもあれば、予後不良であることの多い巢状糸球体硬化症や膜性増殖性糸球体腎炎などがあります。また二次性のものでループス腎炎、アミロイドーシスなども時々出会います。原発性ネフローゼに関しては、これまでその治療に対する指針がなく、主治医の裁量に任されていましたが、最近ようやく治療指針が示されました。ただしまだエビデンス的に不十分な点が多く、またファジーな表現も多く、課題を残しております。

最後に③腎不全です。これはあまりに範囲が広すぎますので、本当にさらっとお話しします。急性腎不全については、今回は割愛します。慢性腎不全ですが、現在はむしろ慢性腎臓病と言うべきですが、まあわれわれ専門医にとっては表現に違いがあるだけであり、つまりは慢性的に腎臓が不可逆的に悪くなっていく病気、あります。代表的存在はもちろん糖尿病性腎症であり、その他は腎硬化症、先ほども出てきたIgA腎症などの慢性糸球体腎炎、多発性囊胞腎などがあります。保存期、つまりまだ腎代替療法（透析・腎移植）に行く手前の段階では、CKDガイドラインに沿った食事指導、生活指導、薬物療法を懸命に行い、一日でも長く保存期の状態を続けられるように頑張ります。それでもよいよ末期腎不全（ESRD）になりますと、血液透析・腹膜透析・腎移植のいずれかを選んでいただことになります。その後はそれぞれの道に進み、それぞれの管理が行われますが、透析の場合は体重管理、貧血管理、CKD-MDB（chronic kidney disease-mineral and bone disorder）管理などを地道に素々と行っています。

以上、つれづれなるままに書いてしまいました。読み直してみると拙文・悪文であり、まことにすいません。どこかにポイントを絞ってホットな話題をからめつつ書けばよかったと後悔しましたが、時すでに遅し。もう時間切れであり、どうかご勘弁願います。

これからも、腎臓内科を何とぞ宜しくお願ひ申し上げます。

【感染管理部】って？ 何しているの？ 誰がいるの？

感染管理部 感染管理認定看護師 西 朝 江

昨年「感染管理をする実働部隊って何をしたらしいんだろう？」と発足した「感染管理小委員会ワーキンググループ」ですが、今年度よりメンバーも充実し「感染管理部」として院長直下に配置されました。メンバーは顧問の吉田副院長はじめ、東館部長、相坂副部長、横尾先生、看護局からは佐々木科長、岩田科長、嶋宮科長、市川係長、和島係長、坂本係長、薬剤部からは門村係長、検査部からは伴さん、経理課長尾補佐、庶務課内山補佐、そして感染管理専従の西の15名で構成されています。

活動は、週1回のラウンドとミーティング。ラウンドでは「この患者さんのバルーンってまだ必要ですか？」、「この冷蔵庫に食べ物や検体がはいっていますけど、これって薬品用冷蔵庫なので一緒ににしてはいけません」、「あら～バイアルは産業廃棄物に捨てるようになりますよね。分別一覧よくみて」など小姑のように回っています。でもこれって何で？って思いませんか？なんでバルーンを抜かなきゃならないか分かってますか？なんで冷蔵庫に食べ物や検体をいれてはいけないんですか？

是非ラウンドしている部員に質問してください！！！（みなエキスパート揃いです）はたまた、こんなこともあります（本当に感染管理認定看護師の仕事かどうかは疑問？？？）。

写真はエアコン内部のグラスワール交換の時のものです。カビ様の汚染がみとめられたので、患者療養環境や処置する環境に対する真菌の汚染封じ込めのために、高性能フィルタ付き陰圧ユニットをつかって交換しました。その前後には空気中に浮遊している真菌を検査し「ちゃんと封じ込めができているか」を確認しました。これが功を奏したのか、幸いにも患者さん・職員に健康被害は生じませんでした。

日中そして準夜の忙しい中、関連部署の皆様には、せまくるしい状況でのお仕事や物品の移動にご協力いただき本当にありがとうございました。そして普段みかけない業者さんたちとウロウロしご迷惑おかけしました。このような取り組みをしているところはまだまだ全国的には少ない状況ですが、近い将来これが当たり前のこととして行われる日が来た時には「ああ、うちは何て最先端をいってたんだ！患者と職員の安全を守る素敵な病院に勤めることができて良かつた」って一緒に喜んでいただければうれしいです。



看護局の現状

看護局長 的 場 由紀子

今日は、当院の看護局の概要とその活動状況についてお話ししたく、紙面を割いて頂くことになりました。こういった機会を頂いたことに感謝したいと思います。

外来数720名（日平均）に対し、看護師配置数は実質換算27.2人と通常言われる30人に1名の配置数24人に比べると、やや余裕のある配置となっています。また、入院病棟に関しては、7対1入院基本加算を取ることが出来ています。外来数720人と入院病床数239床（37床が休床の為）の稼働率73%の対象を総勢250人強で看護している状況です。



こんにちは 医療連携・相談室です

日頃、連携をさせて頂いている先生方を紹介します。

医療法人社団 H・N・メディック

今回は、1991年10月に開院されましたH・N・メディックの理事長・院長 橋本史生先生にお話を伺いました。

H・N・メディックは、人工透析を中心に診療をおこなっており、夜間透析も実施しております。札幌市内に一つ、北広島市に一つ分院があり、3施設合計の透析ベッドは151床（他入院19床）の規模となっております。



理事長・院長 橋本史生先生とスタッフの皆様

●病院の特徴について教えてください

当院は、人工透析療法を含む腎疾患専門の医療機関です。現在透析ベッドを75床有し、道内屈指の規模の人工透析施設となっています。

当院では、透析医療において最も重要なことは非透析日における自己管理だと考えます。非透析日の過ごし方が患者さんの予後を大きく左右すると言っても過言ではありません。だからこそ、透析食に力を入れ、水分食事管理指導を行っています。実際に、当院で提供している食事のレシピをホームページで公開しています。食事の他にも当院の取り組み、考え方を掲載しています。是非、ホームページもご覧下さい。



清潔な落ち着いた雰囲気の待合室

●医療連携に対するお考えをお聞かせください

地域の中核病院である札幌社会保険総合病院と各地域の診療所を結ぶ最初の窓口としていつも的確且つ丁寧な対応をして頂き、心強く思っております。また、迅速な対応に感謝しております。

高齢化が進む中でより一層医療連携室の重要性は増すと思われますので、今後ますますの発展をお祈り致します。



75床の透析ベッドを有するクリニックです



〒004-0055

札幌市厚別区厚別中央5条6丁目1-5

電話011-801-6660 FAX011-801-6665

ホームページ <http://www.hnmedic.jp/>

七夕のタベ

5階西病棟 看護科長 高橋栄子

8月4日「七夕のタベ」が開催されました。昨年に引き続き、ウクレレの演奏とフラダンスを披露して頂きました。

入院患者さんの中には楽しみにしていた方も多く、曲の終りには、大きな拍手をされ、ニコニコしながらフラダンスを見ている顔があり、闘病中の楽しいひと時を味わうことができたようです。

短冊に願い事を一生懸命に書いてくれた〇〇さん。病室では文字を書く姿を拝見したことがなかったのですが、七夕飾りを目の前に

して書きたいと要望され「畑の作物がたくさん実のりますように」と書かれました。

翌日「昨日は楽しかったよ～」と話してくれた患者さんもありました。



編集後記

ついこの間まで暖かったのがウソのように、最近の朝は冷え込んでいますね。そんな朝を迎えるたびに、もう秋だな～。と季節を実感している今日この頃です。

秋といえば、読書の秋・・・、食欲の秋・・・、スポーツの秋・・・、いろいろな秋がありますが、みなさんはどんな秋を過ごされていますか。私は、毎年食欲の秋を満喫してしまうので、今年はスポーツの秋を過ごせればと思っています！☆

秋は季節の変わり目で、体調を崩しやすい時期でもあるので、みなさん体調管理には気を付けてくださいね◎(早川記)

編集委員 相川・長瀬・吉田・嶋宮・中野渡・市川・奥田・楠・小竹・北村・早川